

ICT機器を活用し、発表を行う、発表の評価をリアルタイムで行い、集計する

《実践事例》

- ① 本年度設置された電子黒板および校内無線LANを利用し、課題研究発表のために共同編集した Google スライドまたは Power Point を用いて発表する。
- ② 発表を聴いているクラスメイトはGoogle Form による評価アンケート（授業開始前にClassroom に配信）に、各自の端末を使って発表が終了する度に回答する。
- ③ 学校で実施するアンケート（学校評価アンケートや生活実態調査等）をGoogle Form を用いて行う。

ICT活用の効果およびポイント

- ① どちらを利用した場合であっても、同時に編集することができるため、協働して発表資料を作成することができる。ただし、Power Point で作成したものをGoogle ドライブにアップロードすると、Google スライドに変換されてしまい、ずれが生じることがあったことは注意が必要だと感じた。
- ② その場で集計結果が反映されるため、全体の意見をすぐに把握することができる。
- ③ 大量のデータの処理が必要だった全校生向けアンケートの集計処理が非常に簡単になるため、教頭先生、各部の部長の先生方の仕事が減り、大変喜ばれた。また、生徒がForm でのアンケートに慣れてくれたことにより、パスワードの紛失や失念による再発行依頼が激減するというメリットも生じた。



授業風景動画(約30秒)


ICT機器を用い、協働編集を行う <第1学年 総合的な探究の時間>

Googleスライドで探究活動の発表会用のポスターの作成を行った。クラウドに保存されるので、インターネット環境さえあれば、自宅での編集も可能となる（授業だけではなく、冬休みの宿題としても活用した）。また、教員側もデータにアクセスすることができ、進捗状況を確認することができる。

ICT活用のポイント

操作方法やクラウドの使用方法などをマスターするまでに時間を要する。1つの授業だけでなく、学校として活用していく必要がある。



 授業風景動画(約10秒)

ICT機器を用い、遠隔地と発表会を行う <第2学年 総合的な探究の時間>

テレビ会議システムを利用し、遠隔地と合同発表会（探究活動、ディベート）を実施した。発表後はGoogleフォームで評価を行った。集計結果はクラウド上に即座に反映されるので、いつでもどこでも確認することができる。

オンラインで遠隔地とつなぐことにより、クラスでの活動以上に、刺激を受け、多様な考え方に触れることができる。

ICT活用のポイント

各学校と打ち合わせが必要（時程の調整、役割分担など）

